



環境社会学会ニューズレター

JAES Newsletter

16(通号 21) 1998.5.15 環境社会学会発行

【学会事務局】〒180 東京都武蔵野市吉祥寺北町 3-3-1 成蹊大学文学部 高田研究室
Tel:0422-37-3675 Fax:0422-37-3875 E-mail:aki@one.fh.seikei.ac.jp
郵便振替口座:00530-8-4016 口座名:環境社会学会

目 次

1. 環境社会学と環境政策	1
2. 環境社会学会第 17 回セミナー開催について	2
3. 第 14 回 ISA 世界会議 RC24 部会のお知らせ	3
4. 1998 年度コープ環境公開講座のお知らせ	4
5. 1999 年地球的規模の環境変化に関する公開研究集会のお知らせ	4
6. 新会員名簿作成以後の変動(所属・住所等の変更)	6
7. 会員情報(新入会員)* プライバシー保護のため省略	6
8. 編集後記	6

1. 環境社会学と環境政策

鳥越皓之(関西学院大学、環境社会学会会長)

いま、多くの大学で環境社会学の講義が行われている。また新規に開設される大学のなかでも、環境社会学を科目として設定するところが増えてきた。環境社会学を重視する傾向は教育・研究分野だけではなく、行政やひろく社会にも見られるように思える。会員の研究の成果が、環境社会学への注目となったのであろう。

このような状況のなかであって、いま環境社会学に期待されているひとつは、この分野からの環境政策ではないだろうか。私は環境政策は、生態学的政策論、工学的政策論、経済学的政策論、社会学的政策論というように、個別科学に分散しては効果が薄く、政策は総合的でなければならないと考える立場である。しかし、政策が総合化される前に、個別科学で受け持ち責任範囲を意識化する必要がある。そのばあいの個別科学は、どちらかという、横並びに存在しているのではなくて、いわば川の上流下流のように縦にならんでいるように私は思っている。たとえば工学的政策論は、ほとんどが末端処理型で下流に位

置する。それに対し、社会学的政策論は主要には原因遡及型であろう。したがって上流に属している。川の最上流は価値・文化論であり、それは社会学の得意とする範囲である。そこで、最上流の水を含んだ、つまり価値・文化分析を含んだ、組織論・運動論が要請されるわけだが、この原因遡及型の政策論は、いくつかの注目すべき成果があるものの、まだ緒についたばかりだ。今後のわれわれの学会でもこの種の政策論議が深められることを期待したいものである。

2.環境社会学会第17回セミナー開催準備状況と参加者へのお願い

榎瀧俊子（淑徳大学、セミナー事務局）

1998年度春のセミナーはフィールドトリップを中心に足尾鉍毒事件ゆかりの地を回る計画をたてましたところ、交通の便が悪いにもかかわらず、100人近くの参加申し込みがありました。予想以上の参加申し込みにより事務局はうれしい悲鳴をあげております。急遽、5日の佐野市の宿舎を「ホテル三吉野別館」から収容人数の多い「旅館旭館」に変更するなど、対応におわけておりますが、現地の足尾町や渡良瀬川研究会、田中正造の生家を守る市民の会、田中正造大学の方々にご協力をいただきながら準備をすすめております。また、最終日の7日の自由報告には12人の会員から応募がありましたので、2部屋に分けて、10:00-13:00に行う予定にしています。

フィールドトリップへの参加申し込みと自由報告への応募は、バスや宿舎などの予約の都合上、一応、締め切らせていただきます（ただし、参加申し込みに変更があった場合にはまだ申し込みされていない方の参加希望に添える可能性もでてくるかと思っておりますので、セミナー事務局までお問い合わせください）。参加費用は現在参加申し込みをされた人数をもとに算出いたしますので、申し込みを変更された場合には、多少経費を負担していただくこともありますことをお含みおきください。

また、参加申し込みをいただいた方には、詳細な案内・プログラムを近日中にお送りし、最終の日程を確認させていただきます。ご多用のところ恐縮ですが、ご連絡くださいますようお願いいたします。

なお、6月7日（日）の9:00-9:50に、総会を開催いたしますので、会員の皆様の参加を重ねてお願いいたします。

セミナー事務局連絡先

菅井益郎（国学院大学経済学部） 大学：〒150-0011 渋谷区東4-10-28

TEL 03-5466-0321（直通） FAX 03-5466-2340 E-mail sugai@kokugakuin.ac.jp

平岡義和（奈良大学社会学部） 大学：〒631-0803 奈良市山陵町1500

TEL 0742-41-9561 FAX 0742-41-0650 E-mail hiraokay@daibutsu.nara-u.ac.jp

（前回のセミナーの案内に記載したFAX番号は違っていましたのでご注意ください）

榎瀧俊子（淑徳大学社会学部） 大学：〒260-0812 千葉市中央区大巖寺町200

TEL 043-265-7331（代） FAX 043-265-8310

E-mail masugata@soc.shukutoku.ac.jp

お問い合わせは、榎瀧または平岡までお願いいたします。

3. 第 14 回 ISA 世界会議 RC24 部会のお知らせ

満田久義 (佛教大学、国際社会学会「環境と社会」研究委員会理事)

第 14 回国際社会学会世界会議が 1998 年 7 月 26 日から 8 月 1 日までモンリオールで開催されますが、同会議での「環境と社会」部会 (RC24) のプログラムが、以下のごとく決定しました。参加希望あるいはご関心のある方は満田までご連絡下さい。

TIME SCHEDULE FOR RC24 SESSIONS IN MONTREAL

MONDAY - JULY 27th

- 14:00-16:00 1. Global Environmental Change - Liberatore and Jaeger
- 16:30-18:30 2. Green Consumption and Lifestyle - Shove and Spaargaren
- 20:30-22:30 3. Ecological Movements: Theoretical Perspectives - Viola

TUESDAY - JULY 28TH

- 14:00-16:00 4. Ecological Movements in Various Countries -Vaillancourt
- 16:30-18:30 5. Ecological Modernization - Mol and Rinkevicius

WEDNESDAY - JULY 29TH

- 9:00-10:00 RC 24 Business Meeting
- 10:00-12:00 6. New Directions in Environmental Policy - Leroy and Herculano
- 14:00-16:00 7. Environmental Attitudes and Behavior:
Cross-National Analyses - Mitsuda
- 16:30-18:30 8. Environmental Attitudes and Behavior:
Elite and National Samples - Dunlap

THURSDAY - JULY 30TH

- 14:00-16:00 9. Sociological Theory and the Environment - Dickens and Buttell
- 16:30-18:30 10. Environmental Attitudes and Behavior:Regional and Local
Surveys- Dunlap
- 20:30-22:30 11. Sustainable Development - Redclift and Vijaya

FRIDAY - JULY 31ST

- 14:00-16:00 12. Sociology of Risk - Rosa and Pardo
- 16:30-18:30 13. Social Construction of Environmental Knowledge and
Problems - Burningham and Yearley
- 20:30-22:30 14. Current Research in Environmental Sociology:
Theoretical Issues - Guay

SATURDAY - AUGUST 1ST

- 14:00-16:00 15. Current Research in Environmental Sociology:
Policy Issues - Gijswijt
- 16:30-18:30 16. Current Research in Environmental Sociology - Dunlap

TO BE ANNOUNCED (JOINT SESSION SCHEDULED BY RC 23)

- 17. Contested Knowledge and Environmental Problems- Mentzel and Yearly

4.1998年度コープ環境公開講座・募集案内：台所から踏み出そう - 地球市民のための環境講座

(財)消費生活研究所・研究助成係 五辻 活

開催期間 1998年6月～1999年2月(連続9回)

時間 毎回土曜日

第1回(6/20)のみ午前10時～12時30分 第2回以降午後2時～4時30分

会場 東京都生協連会館(JR中野駅南口下車/中野区中央5-41-18)

参加費 9回通し 3,000円/1セッション(3回)1,000円/1回 500円

講座定員 各回100名

お問い合わせ・お申し込みは/財団法人消費生活研究所

電話 03-3383-8292

FAX03-3383-7840

<主催> 財団法人消費生活研究所

<後援> 生活協同組合コープとうきょう

<企画協力> 日本環境会議

[第1セッション 恐るべき環境汚染]

第1回 1998年6月20日(土)「地球を襲う生命の衰退 環境ホルモンとは?」

講師/井口泰泉氏(横浜市立大)この回のみ Am10:00～12:30

第2回 7月4日(土)「オゾン層破壊と地球温暖化 科学と政治の乖離」

講師/松本泰子氏(東京理科大学諏訪短期大学)

第3回 7月18日(土)「廃棄物で埋まる環境」 講師/植田和弘氏(京都大学)

[第2セッション 環境対策・アジアと日本、世界と日本]

第1回 9月19日(土)「アジアの環境問題は今」 講師/原田正純氏(熊本大学)

第2回 10月3日(土)「環境先進国・ドイツから学ぶ」講師/諸富 徹氏(横浜国立大学)

第3回 10月31日(土)「グリーンコンシューマー - 世界の動きは」

講師/緑川芳樹氏(グリーンコンシューマー研究会)

[第3セッション 地球市民として、台所から踏み出すために]

第1回 12月5日(土)「環境政策・環境法はどうなっていくか」

講師/淡路剛久氏(立教大学)

第2回 1999年1月23日(土)「行動する地球市民のためのガイド」

特設/「グリーンコンシューマーのためのワークショップ」から

第3回 2月6日(土)パネルディスカッション「地球市民として - 台所から踏み出すために」

コーディネーター/寺西俊一氏(一橋大学)

パネリスト/松本泰子氏・長谷川公一氏(東北大学)

グリーンコンシューマー研究会・環境庁

5.1999年地球的規模の環境変化の人間社会的側面に関する公開研究集会開催のお知らせ

青柳みどり(国立環境研究所)

来年1999年6月24日から26日に「1999年地球的規模の環境変化の人間社会的側面に関する公開研究集会(IHDP)」(1999 OPEN MEETING OF THE HUMAN DIMENSIONS

OF GLOBAL ENVIRONMENTAL CHANGE RESEARCH COMMUNITY) が、湘南国際村 (〒240-0115 神奈川県葉山町上山口 1560-39) で開催されます。

この研究集会は、地球規模の環境変化に関する社会科学分野の研究者間の相互理解と情報交換をはかるために企画されました。1995年のアメリカ合衆国デューク大学、1997年のオーストリアの国際応用分析研究所(IIASA)での開催に続く第3回目の開催です。今回は、今年度新しく設立された地球環境戦略研究機関(IGES)の主催で日本で開催されることになりました。

現在のところ、6つの主なセッションが考えられています。これ以外のセッションを開きたい場合には直接 IGES までコンタクトをするようお願いいたします。また、それぞれのセッションで発表されたい方は、各自 IGES までお送りください。アブストラクトの申し込み締め切りは、1998年の11月です。詳しくは、添付の英文案内を参照ください。

なお、途上国・市場経済移行国等からの参加者には渡航費用等の補助の制度が考えられていますので、該当の方は早めに事務局にコンタクトを取られるよう、お願いいたします(国内研究者で該当の方に知り合いがあられましたら、そのように口添えしていただければありがたいと思います。)

詳細は、地球環境戦略研究機関(the Institute for Global Environmental Strategies)のホームページ(<http://www.iges.or.jp/>)に随時掲載されていく予定です。

1999 OPEN MEETING OF THE HUMAN DIMENSIONS OF GLOBAL ENVIRONMENTAL CHANGE RESEARCH COMMUNITY

June 24-26, 1999

Shonan Village*, Kanagawa, Japan

An increasing number of researchers are interested in the human causes and impacts of global environmental change, as well as recognizing that local and regional scales are critical for their studies. Following two successful international meetings held at Duke University in 1995 and at IIASA in 1997, the 1999 Open Meeting aims to promote exchanges of information on current research and teaching and to encourage networking and community building in this emerging field. The meeting, hosted by the Institute for Global Environmental Strategies (IGES, Japan), will be held in Shonan Village, an international conference center in a scenic setting south-west of Tokyo.

Plenary talks and commentaries on the following topics are planned: Conflict and the Environment - the interaction between conflict prevention and resolution and environmental issues; Lifestyles, Attitudes and Behavior - their role in driving global environmental change and the potential role of alternative development paths; Decision-making Processes in Response to Global Environmental Change - in particular the linkages between the international, national and local scales and the obstacles to the transfer of policy instruments and norms from one region to another; Land Use and Land Cover Change - the social dimensions of changing land use, human settlements and land cover patterns; Valuation of Ecosystem Services - current thinking on the values that can be attributed to services such as climate regulation, water supply and recreation; Demographic Change and the Environment - the relationships between population growth and other demographic factors, for example migration, and environmental change.

In addition to plenary talks, there will be a large number of sessions devoted to the presentation of research results. The International Scientific Planning Committee welcomes the submission of abstracts for individual papers as well as proposals for entire sessions. Selection of the proposals/abstracts will be based on quality and the need to create a coherent, balanced meeting agenda. The Committee encourages the participation of researchers from a broad range of disciplines, including researchers from developing countries and countries with economies in transition, as well as young researchers from all over the world. For these latter categories of researchers, the aim is to provide financial support for some participants whose abstracts are selected for the meeting.

For further information on the meeting, including instructions for the submission of abstracts, please consult the IGES Web Site (<http://www.iges.or.jp/>), or send an e-mail to hdgec@iges.or.jp, or mail/fax your inquiry to Mr. Yasushi Itoh, IGES at Shonan Village Center. (Fax: +81 468 55 3709). The deadline for submission of abstracts is November 1, 1998.

6. 新会員名簿作成以後の変動（所属・住所等の変更）

環境社会学会事務局

このたび約2年ぶりに、「環境社会学会会員名簿」を作成いたしました。ただその時、郵便番号を変換ソフトによって一律に7桁化したために、大学や所属機関固有の郵便番号をその地域の番号で表示してしまいました。そのことを新名簿発送の前日（12月18日）に気づいたのですが、郵便局に確かめると、地域の番号でも届くということでしたので、実害はないと判断しそのまま発送しました。しかし早速何人かの方々からご指摘を受けました。申し訳ありません。所属機関に手紙を出される時は、どうかちょっと気をつけて下さい。

もう一つは、裏表紙の「機関誌『環境社会学研究』関係の連絡先」の3番目、非会員に対する「定期購読用郵便振替口座」が、新曜社の口座に変更になっていることを失念していたことです。（ニュースの第13号で既に報告していたのですが。）正しくは、次の通りです。 口座番号：00120-5-108464 口座名：株式会社 新曜社

それでは事務局にお知らせくださった方々の住所、所属等の変更を受け順に列挙していきます。（旧の住所や所属はカットしました。）変更の連絡をしていたのに新名簿に載っていないとお怒りの方の分も合わせて載せています。すみませんでした。

7. 会員情報

* 会員のプライバシー保護のため省略させていただきます *

8. 編集後記

今回は、新入会員の「関心」まで載せてみました。名簿はあと2年位出ないでしょうから、この「新入会員」の部分は保存しておいて下さい。眺めてみるといろいろな方々が参加されており、環境社会学会の幅の広さがうかがわれます。こういう幅広い分野の方々の関心に答えられるセミナーを企画し、機関誌『環境社会学研究』を発行していかななくてはならないのですから、事務局役は大変です。どうか会員の皆さんの方からも、いろいろな

企画やアドバイスを直接事務局に提案して下さい。それでは6月7日朝の総会の時にお会いしましょう。前夜の「朝まで討論会」で飲みすぎたりして、どうか寝過ごさないように。